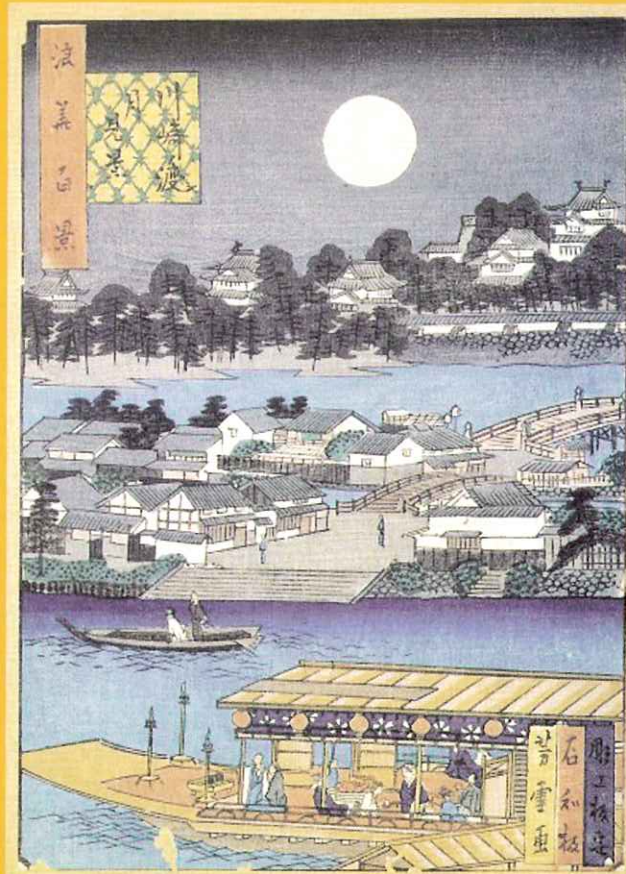


おおさか わたしば
大阪の渡し場
いまむかし

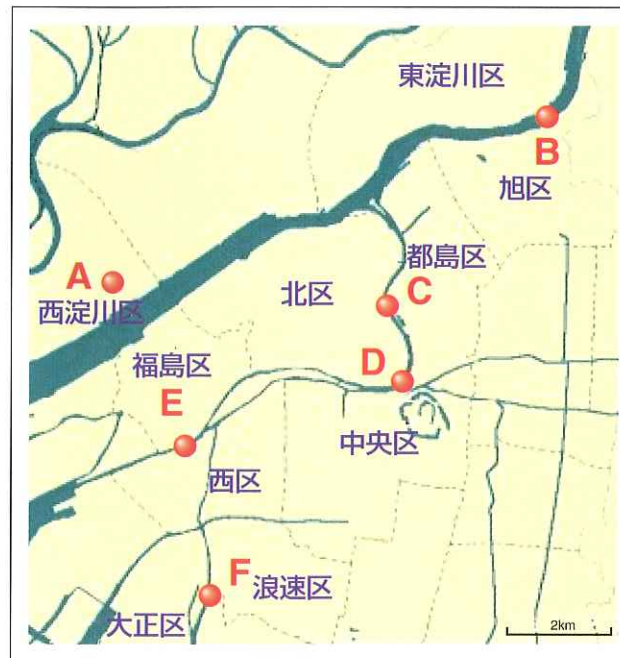


浪花百景より「川崎ノ渡し」月見景(大阪城天守閣蔵)

おおさか し けんせつぎょく と せんじ む しょ
発行：大阪市建設局 渡船事務所
電話 (06) 6531-0548

わた ば あと
渡し場の跡

Ruins of past ferries



はじめにも述べたとおり、かつて大阪にはたくさんの渡し場がありましたが、その多くが廃止されて今は見ることはできません。ここでは、廃止された渡し場の跡6カ所を選んで、その由来などを記してみました。
各箇所の地図に表示された●印は、渡し場の跡に建てられた顕彰碑などの位置を示しています。



の ざと わた ば あと
野里の渡し跡

Nozatono-watashi crossing



淀川改修以前のの中津川はこの付近を流れ、「野里の渡し」が置かれていた。「摂陽郡談」(元禄14年(1701)刊行)に『野里済(わたり)』とあり、尼崎方面への街道の一部になっていた。また「摂津名所図会大成」に『中津川の下流 野里村にあり 此の街道は大坂より尼がさきにいたる近道なるがゆへに 西国往還の旅人兵庫西の宮尼が崎等の諸商人ことごとく此の渡しを越ゆるにより常に行人間断なく 別けて尼がさきの魚商人飛脚をはじめ西宮兵庫の飛脚諸商人日毎に通行して頗る賑わしき道条なり』という。明治9年に「櫛(かしわ)の橋」という有料の木橋が架けられた。この橋は、新淀川の通水により中津川が埋め立てられる明治39年頃までであった。

櫛の橋と野里の渡し跡を示す小さな石碑は、旧中津川の堤防跡と思われる商店街の一角に立っている。またそこから南西にあたる住吉神社の境内には大阪市教育委員会の顕彰碑が、説明板とともに建てられている。



・西淀川区野里一丁目20-14：
JR塚本駅下車、南西へ徒歩7分。又は野田阪神前から市バス38系統又は阪神バス野里下車、北東へ徒歩7分

・Nozato 1-20-14, Nishiyodogawa-ku : Walk 7minutes southwest from JR Line Tsukamoto Station. Or take the bus from Noda or Nodahanshin Station and get off at "Nozato", walk 7minutes northeast.

B へいた わた あと 平田の渡し跡 Heitano-watashi crossing

平田の渡しは延宝4年(1676)頃に開かれた。大坂町奉行から認可を受けて、手広く渡船業を営んだ土豪沢田佐平太の名からとったものではないかと言われているが、当時の渡しは、西成郡豊里村大字天王寺荘字平田と東成郡古市村大字今市を結んでいたため、この地名からきたとも考えられる。この地は丹波地方や大和地方への交通の要地で、淀川を上下する川船を改める番所があり、淀川両岸は渡船で結ばれていた。この渡しは、明治の新淀川開削工事によって、明治37年以降は豊里村内の飛び地を結ぶ村営渡船場(請負制)として存続し、大正14年に豊里村が大阪市に編入されたのに伴い市に引き継がれ、昭和23年4月には直営となった。しかし、同45年3月、豊里大橋の開通により300年に及ぶ歴史を閉じることとなった。



- ・東淀川区豊里三丁目(淀川右岸): 地下鉄太子橋今市駅から市バス27、33A、95「豊里」下車、南へ徒歩4分。
- ・旭区太子橋一丁目(淀川左岸): 地下鉄太子橋今市駅から徒歩5分。
- ・Toayosato 3, Higashiyodogawa-ku and Taishibashi 1, Asahi-ku (embankments of Yodo river): Walk 5 minutes north from Subway Taishibashi-imaiti Station. Or take the Bus (No.27, 33A and 95) from Taishibashi-imaiti Station and get off "Toayosato", walk 4 minutes south



右岸堤防上に立つ「平田の渡し跡」碑



左岸堤防上に立つ「平太の渡し跡」碑



平田の渡し跡に架かる豊里大橋

C げんばちわた あと 源八渡し跡 Gempachi-watashi crossing

「摂津名所図会大成」には、『樋の口のほとりにあり天満源八町の濱より中野への舟わたしなるを以てなづくるなるべし 世に名高し』とある。

左岸の都島側は農村地帯であったが京街道に近く、右岸側は大坂城代配下の役人が住む官舎街であった。渡しを越えたところに中野の梅林があり、また兩岸の堤は桜の名所として名高く、大そう賑わったという。この付近に生まれた俳人と謝蕪村は梅を好み、この梅林の情景を句に残している。

「源八をわたりて梅の主かな」

渡しは明治40年に大阪市営となったが、昭和11年6月、源八橋の架橋により廃止され、橋にその名を残すのみとなった。



・北区天満橋二丁目(大川右岸、桜之宮公園内): JR桜ノ宮駅下車、南西へ徒歩4分。

・Temmabashi 2, Kita-ku (in the riverside park): Walk 4 minutes southwest from JR Sakuranomiya Station.



源八渡し跡に架かる源八橋

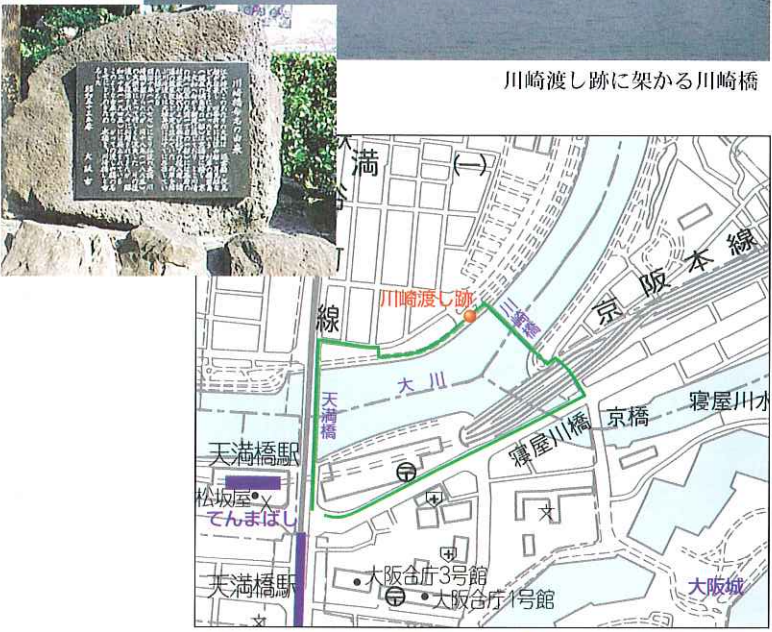
かわさきわた あと 川崎渡し跡 Kawasaki-watashi crossing

右岸側はもと「天満の川崎」と呼ばれ、対岸の備前島に向かう渡しがあった。「撰津名所図会大成」に『天満川崎より備前島への舟わたしなり 上は網島さくらの宮 下は天満ばし むこうに巍々たる金城ありて目ざましくして奇観なり』とある。川崎には、幕府の材木蔵や城代、町奉行配下の役人宅、諸藩の蔵屋敷が立ち並んでいた。一方の備前島（現在の都島区網島町）は、大坂城の京橋口に接し、京街道や大和街道に通じる要所であった。宝永4年（1707）の地図にこの渡しが見られる。明治10年に私設の橋が架けられたが同18年の大洪水で流失した。その後再び渡しが復活し、昭和20年の戦災によって施設が破壊されるまで続いた。

戦後は長く橋も渡しもない状態が続いたが、昭和53年ここに自転車・歩行者専用の川崎橋が完成した。



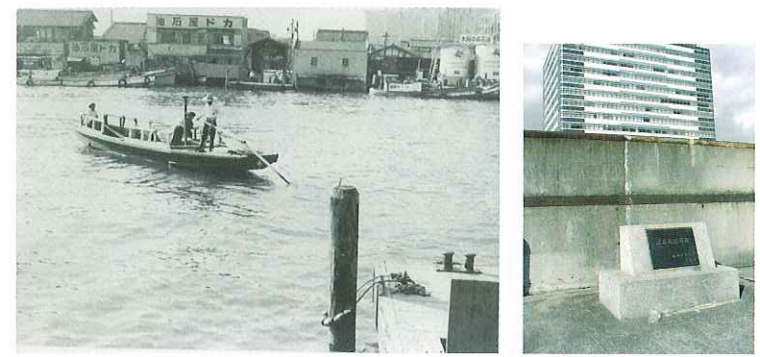
川崎渡し跡に架かる川崎橋



- ・北区天満一丁目（大川右岸、桜之宮公園内）：京阪、地下鉄の天満橋駅下車、北東へ徒歩10分。
- ・Temma 1, Kita-ku (in the riverside park) : Walk 10 minutes northeast from Keihan Line or Subway Temmabashi Station.

とみじまわた あと 富島渡し跡 Tomijima-watashi crossing

この渡しの歴史は比較的新しい。明治18年の淀川大洪水のとき、約500メートル上流に架かっていた二代目の安治川橋が、上流から流れてきた流木、さらに流失した上船津橋をせき止める形となり、周辺住民に被害を及ぼす危険な状態になったため工兵隊によって爆破された。以来、この付近に橋が架けられることはなく、個人営業で始められこの渡しが唯一の交通手段となった。その後明治40年に大阪市営となり、昭和6年11月に中央卸売市場が開設されてからは、仕入れに通う商人の専用渡しの感があったという。やがて、自動車の普及に伴い利用者数が減少し、昭和57年にその歴史を閉じた。



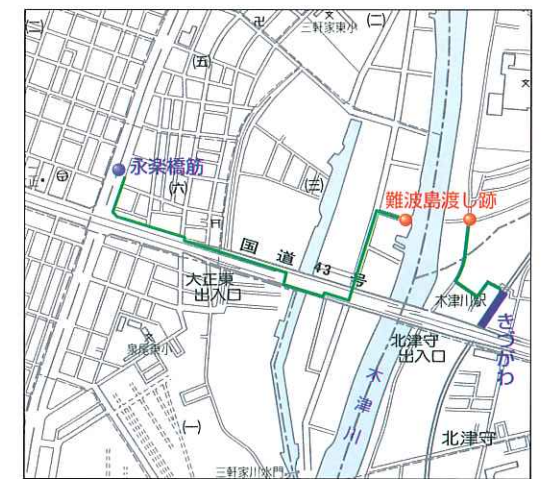
- ・福島区野田四丁目：ＪＲ野田駅下車、南へ徒歩12分。
- ・西区川口三丁目：なんばバスターミナルから市バス84系統「弁天町バスターミナル」行き「国津橋」下車、北東へ徒歩6分。
- ・Noda 4, Fukushima-ku : Walk 12 minutes south from JR Noda Station.
- ・Kawaguchi 3, Nishi-ku : Take the No.84 Bus bound for "Bentencho Bus Terminal" from Namba Bus Terminal and get off "Kunitsubashi", and walk 6minutes northeast.

なんばじまわた あと 難波島渡し跡 Nambajima-watashi crossing

難波島は木津川と三軒家川に挟まれた島であったが、当時の渡しはこの難波島と対岸（東）の月正島を結んでいた。「撰津名所図会」に『木津川にあり この地船大工職多く常に海船を作事す』と述べ、さらに『芦分船言 昔日難波の住人ひらきし所なれば此島の名とするにや云々 いつくはあれど此浦のけしき猶いふにたらず』と記している。第二次大戦後まで難波島と周辺の川沿いには造船所が数多くあった。昭和57年まで運航されていた市営の渡船場は、大正区三軒家東三丁目と浪速区木津川二丁目を結ぶ、岸壁間75メートルの渡しであった。



(写真提供：毎日新聞社)



- ・大正区三軒家東三丁目3：地下鉄、ＪＲ大正駅から市バス「鶴町四丁目」 行き「永楽橋筋」下車、東へ徒歩12分。
- ・浪速区木津川二丁目5：南海汐見橋線木津川駅下車、北西へ徒歩4分。
- ・Sangen-ya-higashi 3-3, Taisho-ku : Take the Bus bound for "Tsurumachi-yonchome" and get off "Eirakubashisuji", and walk 12minutes east.
- ・Kizugawa 2-5, Naniwa-ku : Walk 4minutes northwest from Nankai Shiomibashi Line "Kizugawa Station".

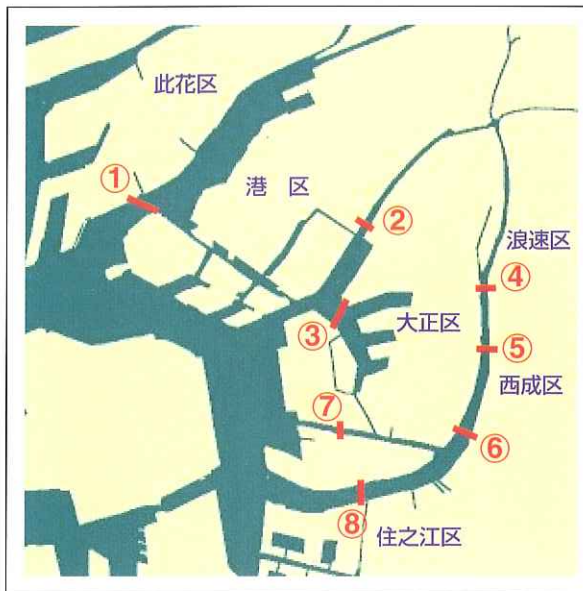
とせんば 渡船場マップ

Ferries Map



大阪市 Osaka City

ばんざいろうこうちゅう とせんば
現在運航中の渡船場
Ferries in operation



浪花百景より「天保山」



Tempozan Ferry

① てんぼうざん とせんじょう
天保山渡船場

天保山（港区築港三丁目）と此花区桜島三丁目を結ぶ（岸壁間400メートル）位置に天保山渡船場がある。

明治38年に開設されたこの渡しは、大阪港の繁栄を企図した大阪市が港湾振興策の一環として始めたもので、昭和15年までは市の港湾部が所管していた。当初は天保山、桜島、築港大栈橋の間を三角運航していたが、大阪港の繁栄につれて利用が増え、築港大栈橋を基点に木津川、尻無川方面にも運航区域を広げ、大正11年に天保山大栈橋が完成して内航客船が発着するようになってからは、天保山～桜島間を終夜運航した時代もあったが、昭和元年には現在のルートになった。昭和初期には桜島付近の重工業化が進んで通勤用としても利用された。昭和12年12月1日午後9時ごろ、渡船が突風にあって転覆、軍需工場帰りの乗客53人の犠牲者を出す事故があった。昭和15年に管理は土木部（現建設局）に移され、現在にいたっている。昭和42年には1日平均1700人の利用者があったが、平成13年には870人程度になっている。



てんぼうざん 天保山について

江戸時代、安治川の開削によって上流の流砂が堆積し諸国廻船の航行に支障が生ずるようになったので、幕府により、天保2年から2年の歳月と延べ10万1200余人を動員して「御救大浚」と呼ばれる大工事が行われた。このときの捨土を盛り上げたものが出船、入船の目標となった。そこでこれを幕府は「目標（めじるし）山」と命名、やがて人々は、天保山と呼ぶようになった。

「摂津名所図会大成」（寛政5年（1793）～万延元年（1860））に『安治川口の下海辺にあり廻船目印山と号す 天保二年御仁恵によって成就の地なればとて世俗天保山と号す 山の高さ凡十間許周廻百間余嶋の周廻千間余石垣の高さ五間余 橋十二箇所茶店貨食屋（りょうりや）等あまたありて春秋とも賑わし 又高燈炉を建てて夜走（よばしり）の舟の目あてとす その結構厳なり』とある。

近年、市民の熱意により国土地理院に「山」として認定され、「日本一低い山」として話題になった。



- ・ 港区築港三丁目2-25：地下鉄大阪駅下車、北へ徒歩10分
- ・ 此花区桜島三丁目10-34：JRゆめ咲線桜島駅下車、南西へ徒歩10分

- ・ Chikko 3-2-25, Minato-ku : Walk 10 minutes north, from Subway Osakaka Station
- ・ Sakurajima 3-10-34, Konohana-ku : Walk 10 minutes southwest, JR Yumesaki Line, Sakurajima Station.



昔、尻無川の堤は紅葉の名所であった。「摂津名所図会大成」に『大河の支流にして江之子じまの北より西南に流れて 寺島の西を入る 後世この河の両堤に黄櫨の木を数千株うえ列ねて実をとりて蜆に製するの益とす されば紅葉の時節にいたりては河の兩岸一圓の紅にして川の面に映じて風景斜ならず 騒人墨客うちわれて風流をたのしみ酒宴に興じて常にあらざる賑ひなり 河下に甚兵衛の小屋とて茶店あり 年久しき茅屋にして世に名高し』とあり、甚兵衛によって設けられた渡しにある茶店は「蛤小屋」と呼ばれて名物の蜆、蛤を賞味する人が絶えなかったという。

現在も甚兵衛渡船場は健在で、大正区泉尾七丁目と港区福崎一丁目を結び（岸壁間94メートル）、朝のラッシュ時は2隻の船が運航している。平成13年度の平均1日利用者は1580人を数える。



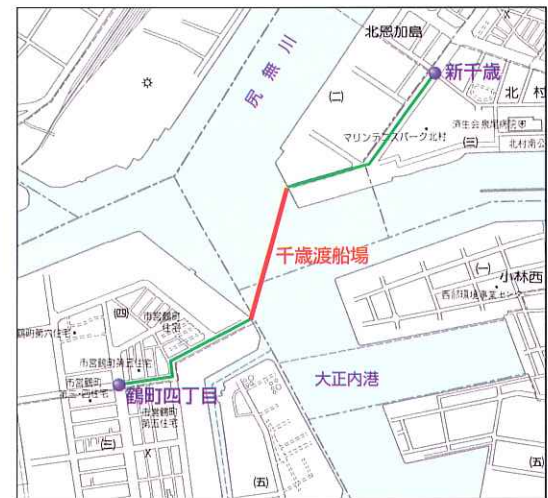
浪花百景より「はぜづつみ 甚兵衛の小屋」



- ・大正区泉尾七丁目13-32：地下鉄、JR大正駅から市バス「新千歳」方面行き（98、98A、108系統）「泉尾四丁目」下車、西へ徒歩5分
- ・港区福崎一丁目3-50：弁天町バスターミナルから市バス106系統「福崎一丁目」下車、南東へ徒歩5分（夕風からは12分）
- ・Izuo 7-13-32, Taisho-ku : Take the Bus(No.98 or 108) from Taisho Station and get off at "Izuo-yonchome" walk 5 minutes west .
- ・Fukuzaki 1-3-50, Minato-ku : Take the No.106 Bus from Bentencho Station and get off at "Fukuzaki-itchome", walk 5 minutes southeast.



この渡しは大阪港復興事業の一つとして大正区の内港化工事を行った際、既設の千歳橋が撤去され、その代わりの施設として設けられた。昭和30年7月にそれまでの民営から港湾局の所管とし（同32年6月直営化）、同39年建設局に移管された。大正区鶴町三丁目と同区北恩加島二丁目間（岸壁間371メートル）を運航している。平成13年度現在1日平均約770人が利用している。



- ・大正区北恩加島二丁目5-25：地下鉄、JR大正駅から市バス98、98A、108系統「新千歳」下車、南西へ徒歩10分
- ・大正区鶴町三丁目1-69：地下鉄、JR大正駅から市バス「鶴町四丁目」行き、「鶴町四丁目」下車、北東へ徒歩5分
- ・Kitaokajima 2-5-25, Taisho-ku : Take the Bus(No.98 or 108) from Taisho Station and get off at "Shin-chitose", walk 10 minutes southwest.
- ・Tsurumachi 3-1-69, Taisho-ku : Take the Bus bound for "Tsurumachi-yonchome" from Taisho Station and get off at "Tsurumachi-yonchome" walk 5 minutes northeast .

④ おちあいかみ と せんじょう 落合上渡船場

落合上渡船場は、大正区千島一丁目と西成区北津守四丁目を結ぶ（岸壁間100メートル）。平成13年度現在、1日平均470人程度の利用がある。

上流にある木津川水門（防潮）が毎月1回程度開閉試運転のため閉まっているの見える。



- 大正区千島一丁目29-41：地下鉄、JR大正駅から市バス「鶴町四丁目」行き「大正区役所前」下車、東へ徒歩13分。又は94系統「千島公園前」下車、東へ徒歩5分
- 西成区北津守四丁目15-1：南海汐見橋線津守駅下車、北西へ徒歩9分

- Chishima 1-29-41, Taisho-ku : Take the Bus bound for "Tsurumachi-yonchome" from Taisho Station, and get off at "Taisho-kuyakushomae", walk 13minutes east. Or take the No.94 Bus and get off "Chishima-kouenmae", walk 5minutes east.
- Tsumori 4-15-1, Nishinari-ku : Walk 9minutes northwest from Nankai Shiombashi Line Tsumori Station.



Ochiai-shimo Ferry

⑤ おちあいしも と せんじょう 落合下渡船場

落合下渡船場は、大正区平尾一丁目と西成区津守二丁目を結ぶ（岸壁間138メートル）。平成13年度現在、1日平均400人程度が利用している。

毎年10月末から翌年4月末にかけて、数百羽のユリカモメが飛来する。



- 大正区平尾一丁目1-26：地下鉄、JR大正駅から市バス「鶴町四丁目」行き「大正中央中学校前」下車、東へ徒歩12分。又は94系統「小林公園前」下車、東へ徒歩3分
- 西成区津守二丁目8-21：なんばバスターミナルから29系統「地下鉄住之江公園」行き「津守神社前」下車、北西へ徒歩8分

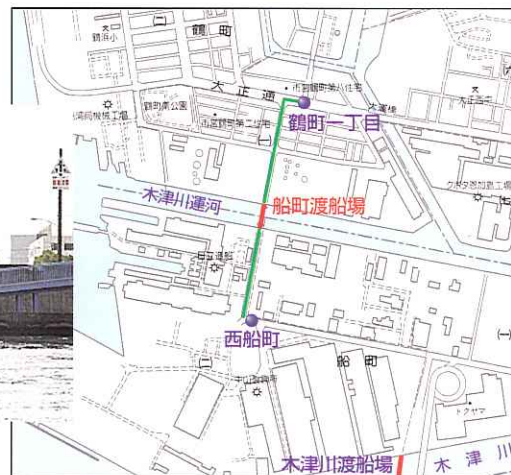
- Hirao 1-1-26, Taisho-ku : Take the Bus bound for "Tsurumachi-yonchome" from Taisho Station, and get off at "Taisho-chuo-chugakkou-mae", walk 12minutes east. Or take the No.94 Bus and get off "Kobayashi-kouenmae", walk 3minutes east.
- Tsumori 2-8-21, Nishinari-ku : Take the No.29 Bus bound for "Subway Suminoekouen" from the Namba Bus Terminal and get off at "Tsumorijinja-mae", walk 8minutes northwest.

⑦ ふなまち と せんじょう 船町渡船場

船町渡船場は、大正区鶴町一丁目と同区船町一丁目を結ぶ（岸壁間75メートル）。平成13年度現在、1日平均240人程度が利用している。昭和20年代後半から30年代にかけて、川幅が狭いことを利用して対岸まで船を運ね、その上に板を敷き、人や自転車が通行していた。



- 大正区鶴町一丁目16-61：地下鉄、JR大正駅から市バス「鶴町四丁目」行き「鶴町一丁目」下車、南へ徒歩4分。
- 大正区船町一丁目3-117：地下鉄、JR大正駅から市バス70、70A系統「西船町」行き「西船町」下車、北へ徒歩4分。
- Tsurumachi 1-16-61, Taisho-ku : Take the Bus bound for "Tsurumachi-yonchome" from Taisho Station, and get off at "Tsurumachi-itchome", walk 4minutes south.
- Funamachi 1-3-117, Taisho-ku : Take the No.70 Bus bound for "Nishifunamachi" from Taisho Station, and get off at "Nishifunamachi", walk 4minutes north.



大正区南恩加島一丁目と西成区南津守二丁目を結び（岸壁間230メートル）。

このあたりは木津川の川尻に近く、江戸時代には諸国の廻船の出入りの激しいところであった。幕府は、舟運の安全のため水深を確保し、また防波堤としても役立つよう、天保3年（1832）ここに大規模な石の堤を築いた。千本松の名の由来は、この堤防の上に植えられた松並木からきている。「摂津名所図会大成」に『右 塘に数株の松を植列ぬるゆへに俗に木津川の千本松といふ 洋々たる蒼海に築出せし松原の風景は彼の名に高き天橋立三保の松原なども外ならず覚ゆ…』と述べている。

千本松の渡しが設けられた年代ははっきりしないが、大正時代の中頃に初めて設けられたものと思われる。昭和48年に千本松大橋が完成したが、渡船は現在も通勤通学の貴重な交通手段として利用されている。平成13年度現在の1日平均利用者数は1270人程度となっている。



- ・大正区南恩加島一丁目11-1：地下鉄、JR大正駅から市バス「鶴町四丁目」行き、「大津橋通」下車、東へ徒歩9分。又は76系統「地下鉄住之江公園」行き「千本松橋西詰」下車、東へ徒歩2分。
- ・西成区南津守二丁目4-88：あべの橋から市バス7系統「住吉川西」行き、なんばバスターミナルから29系統「南津守」下車、西へ徒歩8分。又は地下鉄住之江公園から市バス76系統「南津守二丁目」下車、西へ徒歩5分。



- ・Minami-Okajima 1-11-1, Taishou-ku : Take the Bus bound for "Tsurumachi-yonchome" from Taisho Station, and get off at "Daiumbashidouri", walk 9minutes east. Or take the No.76 Bus and get off "Sembommatsubashi-nishizume", walk 2minutes east.
- ・Minami-Tsumori 2-4-88, Nishinari-ku : Take the No.7 Bus from Abenobashi or No.29 Bus from Namba Bus Terminal, and get off "Minamitsumori", walk 8minutes west. Or take the No.76 Bus and get off "Minamitsumori-nichourne" walk 5 minutes west.

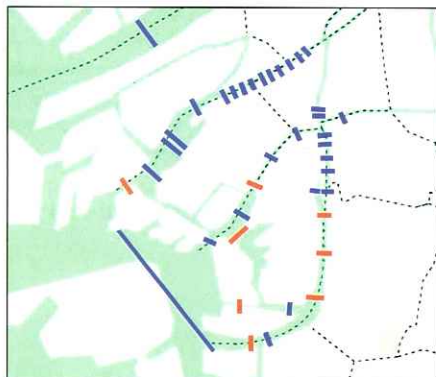
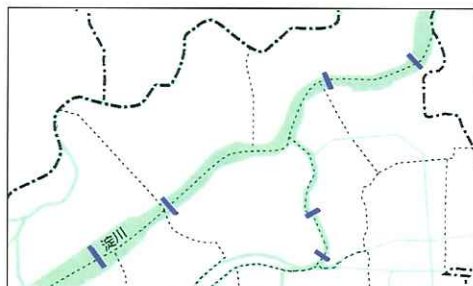
大正区船町一丁目と住之江区平林北一丁目を結び（岸壁間238メートル）唯一の港湾局管理の渡船である。昭和30年12月からカーフェリー（「松丸」134トン）が運航していた。乗用車から大型トラックまで運搬し得る能力を持っていたが、上流部に千本松大橋が開通した昭和48年の翌年からは、カーフェリーは廃止され、人と自転車のみを運ぶ渡船となった。利用者は大正区の工場に通う人や住之江区の木材関係で働く人がほとんどである。水がきれいになったためか、渡り鳥が飛来し、毎年10月から翌年4月にかけて魚をとる姿が見られるという。平成13年度現在の1日平均利用者数は150人程度となっている。管理・運営は、大阪市港湾局管理部作業課（電話：06-6572-4101～4）



- ・大正区船町一丁目1-4：地下鉄、JR大正駅から市バス70系統「西船町」行き「中船町」下車、南へ徒歩4分。
- ・住之江区平林北一丁目1：ニュートラム「平林」から市バス49系統「平林北一丁目」行き「木津川渡し通」下車、北へ徒歩8分
- ・Funamachi 1-1-4, Taishou-ku : Take the Bus bound for "Nishifunamachi" from Taisho Station, and get off at "Nakafunamachi", walk 4minutes south.
- ・Hirabayashi-kita 1-1, Suminoe-ku : Take the Bus bound for "Hirabayashi-kita-itchoume" from NEWTRUM Hirabayashi Station, and get off "kizugawa watashidouri", walk 8minutes north.

とせん ば い ち 渡船場の位置

- 現在運航中の渡船場
- 明治以降存在した渡船場でその後廃止された箇所



Outline of Osaka City Ferries

There are 8 ferry terminals in Osaka with 15 ships providing convenient travel to a large number of citizens.

Osaka, also known as “The Water Capitol”, is blessed with a large number of waterways and has been operating a ferry service for people since ancient times. In the beginning, ferry service was operated privately, but in 1892 the Prefecture enacted “The Ferry Management Rule” to oversee and regulate the service. In 1907, the municipal government took over management of the 29 terminals along the Ajikawa, Shirinashigawa, and Yodogawa Rivers.

After the enactment of the Road Low in April 1920, the ferry service became free of charge and in 1932 the contract system under which the service had been operating ended, making the service directly managed by the City. By 1935 there were a total of 69 ferries (32 motorized and 37 manual) operating at 31 ferry terminals and carrying more than 57 million people and 14 million bicycles annually. However, the construction of bridges and roads, as well as the heavy damage suffered during bombing in World War II, brought about an end to a number of the ferry route. In 1948, 15 of the ferry terminals were reconstructed, but due to the improvement of city infrastructure and an increase of car-users, by 1978 there were only 12 ferry terminals with in annual total of 2.5 million users. In 2001 the number of users was 2.09 million people.

おおさか とせん 大阪の渡船

現在大阪市内には、市の運営する8か所の渡船場があり、15隻の船が地域の身近な交通手段として多くの人々に利用されています。古来数多くの川が流れ、水の都と呼ばれた大阪には、人々の往来のための渡船場が各所にありました。当初民間によって営まれていた渡船は、明治24年に大阪府が「渡船営業規則」を定め「監督取締り」を行うようになり、明治40年には安治川、尻無川及び淀川筋の29渡船場については市営事業として市が管理することになりました。

大正9年4月、旧道路法の施行により渡船は無料となり、昭和7年4月以降はそれまでの請負制を改め、ほとんどが市の直営方式になりました。そして昭和10年頃には渡船場31か所、保有船舶数69隻（機械船32隻、手漕ぎ船37隻）、年間利用者は歩行者が約5752万人、自転車等が約1442万台を数えました。

しかし、その後橋梁の架設など道路施設の整備に伴って次第に廃止され、特に昭和20年には戦災によってその多くを失いました。昭和23年に15か所で再開されましたが、戦災復興とともに道路をはじめとする都市施設が整備され、モータリゼーションの進展もあって渡船の利用は次第に減少し、昭和53年には渡船場12か所、利用者数約250万人に、平成13年度では8か所、約209万人になっています。

このガイドマップは、今も市民の身近な交通手段として活躍している大阪の渡船場を多くの方々に知っていただくことを目的に製作したものです。現在運航している渡船に乗ってみるのもよし、かつて渡船場があった場所を訪れて昔の大阪を偲んでみるのもよい、いちどガイドマップを持って出かけてみられてはいかがでしょうか。**大阪市の渡船は全て無料です。**



通勤客などで賑わう渡船場